

デンマーク : Dong Energy 社、欧州の洋上風力発電導入計画が縮小される中、洋上風力発電事業の拡大を目指す

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

洋上風力発電の更なる発展のためには、風力産業部門による開発コストの大幅な削減が強く求められている。

2010 年、英国は 32GW の洋上風力導入計画を発表し、爾来、洋上風力の導入を着実に進め、昨年操業を開始した世界最大の London Array 風力ファーム (630MW) を含め、既に 4GW の洋上風力発電設備を導入している。しかしながら、2014 年から実施されるエネルギー市場改革の影響が不透明なことから、最近、Argyll Array 風力ファーム (1.8GW) の建設が棚上げされるなど、計画の縮小や中止が相次いでいる。

英国を追うドイツは 2020 年までに 10GW、2030 年までに 25GW の洋上風力発電を導入する目標を立てていたが、再エネ電力導入に伴う賦課金の大幅上昇を受けて再エネ法の抜本的改革に取り組んでおり、導入目標をそれぞれ、6.5GW、15GW へと下方修正をしている。

デンマークの Dong Energy 社は世界最大の洋上風力発電事業者で、London Array 風力ファームを含め、既に、国内と英国において 2GW 以上の洋上風力ファームを建設している。同社は本年 1 月、自社株の 19%を米国の投資銀行、Goldman Sachs へ、7%をデンマークの年金ファンドへ売却した。また、自社が保有する London Array の株式 (50%) の半分をカナダ・ケベック州の年金ファンド¹へ売却した。

Goldman Sachs の Dong Energy 社への出資は、Dong Energy 社のガス事業など収益性の高い事業の拡大を目指したもので、洋上風力発電事業は縮小されるのではないかと、また、London Array の株式の売却は英国での洋上風力発電事業の縮小に繋がるのではないかと、の見方も一部にはある。しかしながら、Dong Energy 社は新規資金の導入によって、洋上風力発電事業の更なる発展、新たな国へのビジネス展開に資するとしている。

洋上風力発展の大きな障害は開発コストが高いことである。逆風が吹き始めた現在の環

¹ La Caisse de dépôt et placement du Québec (CDPQ)

境下で洋上風力発電を更に発展させるためには、建設コストの大幅な削減を図ることが不可欠である。英国では産官協力体制の基、コスト削減の取り組みが既に開始されている。

Dong Energy 社は洋上風力発電コストを 40%削減する目標を設定し、新たに株主となった Goldman Sachs もこれを支持している。本年 3 月、デンマークの環境・エネルギー大臣は、現在の洋上風力発電電力価格は卸売り電力価格の 5 倍であると指摘し、今後洋上風力電力価格の大幅な削減がなされなければ、計画されている 1GW の開発計画の承認はできないとしている。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp